

今回より 4 回かけてヨーロッパ連合(European Union: EU)について考える。

1. 歴史
2. 機構的構造・立法過程
3. EU 法規範の直接適用可能性・優越性
4. EU における民主主義

今回は、歴史を学ぶ。課題文を読み、EU 代表部サイト「[欧州連合の基礎](#)」、「[EU を知るための 12 章](#)」を見ながら、以下の問題について考えてみよう。

1. [OECD](#) (外務省・[OECD 東京センター](#))・[NATO](#) (外務省)・[欧州評議会](#) (外務省) と EU とを比較して、それら諸機構と EU との間にはどのような役割分担が成立しているか、考える。
2. 2012 年 12 月 10 日に授与された[ノーベル平和賞の授賞理由](#)においても“peace”がまず第一に挙げられているように、ヨーロッパ統合は、平和を最大の目的とする。とはいえ、地域統合を進めることは、即ち国家の権限をそれだけ減らすことを意味する。自らの権限を減らすことを受け入れてまで統合を進めようとする事情には、どのようなものがあったのだろうか。
3. なぜ石炭・鉄鋼から統合が始まったのだろうか。
4. 課題文の中に、「フランス主導の」や「イギリスの構想」などという表現が度々現れる。フランスおよびイギリスは、ヨーロッパ統合についてそれぞれどのような基本構想を、どのような背景事情の下に、持っていたか。また、文中から、フランス型秩序構想とイギリス型秩序構想とを示す語をそれぞれ選べ。
5. 「自由貿易圏」・「関税同盟」・「共同市場」それぞれの違いを説明せよ。
6. 単一欧州市場構想はなぜ「1992 年ブーム」を巻き起こしたのか。
7. 通貨統合について、ブンデスバンクから発言権を取り戻す動き、とする見方が紹介されている。そうだとすると、なぜドイツは通貨統合を受け入れたのだろうか。
8. マーストリヒト条約以降、リスボン条約までの間、EU と EC とが併存していた。EU と EC との違いは？

参考文献 (課題文末尾に挙げられているものに加えて)

- 田中素香ほか『現代ヨーロッパ経済 [第 3 版]』(有斐閣、2011 年)
- 久保広正・田中友義 (編著)『現代ヨーロッパ経済論』(ミネルヴァ書房、2011 年)

以上